

令和6年第1回定例会 所信表明

市民が明日の伊万里市に胸が高鳴り、まちに活気と変化を生み出す取り組みを進める

市議会第1回定例会（3月議会）で、深浦弘信市長が市政運営について所信表明を行いました。その一部を紹介します。

【市政運営の基本方針】

私は、守るべき伝統は引き継ぎながらも、新しい価値観や社会の変化をしなやかに市政に取り入れ、今年を『人口減少する中でも成長を維持するまちづくりへの転換点』にしたいと考えています。

このためにまず手掛けるのは『子育て支援』です。子どもが大切に育まれ、若い世代が安心して子育てができる環境を整えるため、子どもや子育て世代の目線に立った多様な視点から施策を展開し、市を挙げた子どもの成長応援に更なる力を注いでいきます。

また、これまでは財政上の課題で手を付けられなかった事業がありました。私が市長就任以来取り組んできた財政健全化の成果をいかし、機

【主な施策】

『いまりSTEP UPプロジェクト2024年版』では、5つの都市像の実現に向けた具体的な取り組みを進めます。

第1 『未来を託す 子育て応援都市』

子育て支援を最重要施策と位置付け『子育て・若者成長応援パッケージ第2弾』として『支える』『感じる』『選ばれる』の3つの視点から支援策を組み合わせて、推進していきます。

まず、子どもの成長と子育てを『支える』取り組みとして、学校や保育施設の給食費の高騰分への支援に加え、進学などに向け特に経済的負担が大きい中学3年生などの給食費を無償化します。

また、民間のノウハウを活用した県内初の公私連携型保育所として民営化した保育園の新施設の整備を支援するとともに、民営化による財政効果をいかし、子育て世帯の約9割にあたる世帯の保育料を引き下げます。

さらに、妊産婦や子育て世帯、子どもへの切れ目のない相談支援を一体的に行う『こども家庭センター』を開設す

るほか、3月で閉園した『ひまわり園』の施設を活用し、家庭環境などに課題を抱える子どもの居場所を整備します。次に、若者が伊万里で子育てしたいと『感じる』取り組みとして『ものづくりのまち伊万里』への愛着の醸成と将来の市内就職や定住を促進する『小学生を対象とした工場見学』などの実施や、学校に加え家庭での『デジタルドリル』の活用や、市内のIT企業と連携した、デジタル技術を積極的に活用する能力の育成などのほか、市制施行70周年記念として『子どもに人気の音楽ユニットによる幼児向けコンサート』を開催します。



↑3月にオープンした伊万里ファミリーパークの『インクルーシブ遊具エリア』

次に、子育ての場に『選ばれる』取り組みとして、多世代交流により地域の子育て力の向

上を促進する『東山代小学校とコミュニティセンターなどの複合施設の整備』をはじめ、安全・安心な通学環境を確保するため、学校から1キロ以内の通学路における『交通安全施設の整備』のほか、家族の絆を深める魅力ある公園づくりとして『伊万里ファミリーパーク』の改修、『楠久津公園』への複合遊具の設置』などに取り組みます。

さらに、明日の市の活気につながるプロジェクトとして『スポーツ』『健康』『憩い』『防災』の4つをテーマとする体育館の建替を中心とした国見台公園の総合的な整備の検討や『子育て』『賑わい』『多世代交流』の3つをテーマとする『市民会館跡地での複合施設の整備』を検討していきます。

第2 『未来を先取る デジタル都市』

デジタル技術を地域課題解決の鍵として、誰もが便利で快適に暮らせる持続可能な社会の実現を目指します。

まず、行政手続きでは、市役所来庁者の住民異動申請時の負担を軽減する『スマート窓口』の本格運用を開始し、導入効果を高めるため1階の案内表示や窓口カウンターなどを更新するほか、コンビニ

エンストアでの住民票などの交付に『戸籍』を追加するとともに、公共施設のオンライン予約受付などへのデジタル技術の活用を検討します。

また、特性を持つ子どもに応じた適切な支援と教員の専門性の向上を図る『特別支援教育システム』の学校への導入や、幅広い世代を対象に市内のIT企業などと連携したデジタル技術を学ぶ場の確保のほか、きめ細かな情報弱者支援として各地区での高齢者などの『スマートフォン教室』を開催します。

第3 『競争に打ち勝つ 産業都市』

伊万里ブランドの振興、交流人口獲得の最大のターゲットとする福岡都市圏向けの観光戦略の拡充など、九州西北部の活力創造拠点として更なる活性化を図ります。

まず、伊万里牛については、経営が悪化し、飼養頭数が減少している肉用牛農家などへの支援として、出荷頭数や等級に応じた奨励金を交付するほか、経営基盤の強化に向けた補助制度を拡充します。

また、福岡市内の飲食店と連携した伊万里産食材による食のイベント開催のほか、旅

好きの女性をターゲットとする『モニターツアー』の開催や『女子旅EXPO』への出展など、市独自の効果的なプロモーション活動を展開します。

このほか、本市出身で海上保安官の活躍を描く『海猿』で有名な小森陽一氏とタイアップし、映画の特別上映会や海上保安庁と連携した体験航海などを開催します。



↑ 来年に佐賀鍋島藩御用窯の開設 350 周年を迎える大川内山

さらに、伊万里駅周辺の民間活力による活性化の促進のほか、令和7年に佐賀鍋島藩御用窯の開設350周年を迎える大川内山において、産地のコンセプトや統一ロゴマークなど次の400周年へと引き継ぐ『産地ブランディング戦略』の策定を支援するほか、伊万里・有田焼伝統産業会館の

資料展示室などを改修します。

第4 『世界に向けた 港湾都市』

伊万里港において、浦ノ崎地区の開発に向け、再生可能エネルギーとして期待が高まる洋上風力発電の関連産業やトラックドライバの過重労働対策にもつながる『フェリー・RO・RO船』の誘致に向けた調査研究を進めるなど、県との連携により、伊万里港の将来の開発を見据えた長期構想の策定を促進し、また、コンテナ貨物の取扱量を増加させるため、佐賀県伊万里港振興会の取り組みを支援するほか、伊万里団地を中心とした企業の集積に伴う渋滞の解消に向け『臨港道路久原線』の4車線化を促進します。

さらに、伊万里ファミリアパークにおいて、民間のノウハウや資金による未利用地の整備を進め、近接する海浜公園を含む海に親しむ公園としての魅力向上に向けて取り組んでいきます。

第5 『SDGs推進都市』

私は、市が成長を続ける魅力あるまちであり続けるには、活気を生み出す新しい施策の展開に加え、小さな声に

もすっかりと向き合い、SDGsの理念でもある『誰一人取り残さない、温かい地域づくり』の視点が欠かせないと考えています。

まず、移住の促進と定住人口の確保については、市内企業への就業を柱として『いま暮らしスタート支援金』などの移住奨励金の拡充やU・I・Jターン就職の促進などに取り組みます。



↑ SAGA 2024 国スポ・全障スポ大会をみんなで盛り上げましょう

また、令和7年に開館30周年を迎える市民図書館を、次の30年を見据えた新たな図書館像の一つとして、市の脱炭素社会の実現に向けた拠点となる『カーボン・ニュートラル・ライブラリー』と位置付け、太陽光発電設備などの整備や環境学習施設の整備方針

を検討します。

このほか、市民の脱炭素への意識向上の促進や観光客などの移動手段の拡充のため、伊万里駅前『EV公用車を活用したカーシェアリング』を導入します。

さらに『誰一人取り残さない、温かい地域づくり』として、地域課題の把握と解決に取り組み『集落支援員』の増員をはじめ、地域における買い物手段の確保と見守りや交流促進を担う移動販売事業者への支援のほか、コミュニティセンターを核とした地域経営の在り方やモデル的な地域づくりなどの研究を進める『地域経営支援室』を新設します。

今年、いよいよ『SAGA A2024国民スポーツ大会』。全国障害者スポーツ大会が開催されます。市の魅力を全国に発信する絶好の機会となりますので、市特産品をいかしたおもてなしや小中学生の競技観戦などを行い、市民総ぐるみで大会を盛り上げます。

私は『伊万里市版SDGs』を推進し、住み慣れた地域で今後も暮らし続けることができる持続可能な伊万里市づくりに、皆さまとともに全力で取り組んでいきます。